

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6年 4月 30日

事業所名 放課後等デイサービス 翔 はばたき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1フロアをフルに活用	運動スペースが狭いため、障がい者センターや公園など外出することを増やしています
	2	職員の配置数は適切である	○			重度の児童が多いため、余裕のある職員配置に努めます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	2階の移動はキャリーを使用	エレベーターが無いため重心の児童には使いにくいと思う。発達障害の特性を理解し安全の配慮に努めます
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		業務前、終了後に必ず改善を図る	スタッフ全員で課題について話し合い、改善していく様努めています
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		直接保護者から意向等確認している	支援学校や他の関係機関と連携し情報を共有しています
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している	他、会報、Facebook、Instagram、ブログなどSNSでのリンクをはり情報公開をしています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者委員会は行っていないが、保護者、支援センター、学校、病院等、色々な業種との業務連携を図ります
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		市内、府内の研修に参加	専門的なスキルを養う為、色んな研修に参加しています
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		新学期前に基本情報のアセスメントを行っている	事業所での様子、学校・家での様子も聞き取り、支援計画を作成する様努めます
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			家庭での様子、学校での様子の聞き取りと、事業所での行動観察の結果を利用しています
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○	子供たちにも決めてもらっている	支援目標を職員で共有し、その支援内容に沿って活動プログラムを立てられるように努めていきます
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	外出等もプログラムに入れていきます	その日の利用者の体調や心の変化状況に応じて臨機応変に対応できる様になっています
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		休日や長期休暇は支援時間が長くなり、固定化してしまう為、外出する機会を多く増やし、気分転換できたり、体幹を鍛えたり課外活動を行う用にしています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別活動することが多いですが、時には集団での活動も取り入れ、他の事業所や学校での活動を考慮しより細かい支援計画を作成する様努めます
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、利用児童の確認や送迎の配車、担当者の確認をしています	送迎、支援内容を確認し欠席者の確認をし、伝達事項に漏れがないか確認しています
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			1日を振り返り日誌を書き情報共有している。何でも気付いた事を言える様に他の話題等も自由に話せる時間を設けています
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳を共有しています	日誌を見て振り返り、問題点があれば話し合い、支援の改善に努めています
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		スタッフ全員でモニタリングを行っている	日報はしっかり記入しています。成長の発達や、他の環境の変化に応じて柔軟に対応していますが、より良い支援の為、関係機関との連携を一層深めていく様努めます	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			他の事業所や支援センターからの情報をもとに、こちらでの役割を分担できる様に努めます	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発か管理者、児童指導員が参加	サービス担当者会議を通じて担当者間の密な連携と情報交換に努めています
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校からの連絡を確認しています	保護者からの情報や学校や関係機関との連絡の調整を行っています
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		連絡体制に留意しています	看護師を配置し主治医より指示書を出して頂きそれに沿った支援をしています
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		直接ではないが、地域のイベントで活動している	お散歩に出かけ、いろんな子供たち関わり交流できています。今後も関係機関と連携し、情報収集に努めます
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現段階では移行した利用者等、該当者はいませんが、必要となる場合資料等整理し情報提供に努めます
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		連絡協議会に参加しています	連絡協議会等で情報や助言を受けているが、研修については課題となっています
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		学校の周りを散歩し関わりを持つ様になっています	小学校の交流行事に積極的に参加していく様努めます
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		管理者、児発管が必ず参加しています	協議会で情報を得ると共に今後の課題等について情報収集する様に努めています
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			保護者に送迎時、直接お会いした時やお電話ライン、イベント、行事などに参加して頂いた時に伝えていきます
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		中々、時間が取れずですが、今後はファシリテーターが中心となり家族支援ペアレント・トレーニングの支援を行える様に努めます
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に書面と口頭で説明している	おやつ代等、昼食代、他送迎や延長など必要な加算などが有れば、説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個人的にも色んな面で援助している	他、学校関係者や病院関係者、相談員などと協力し支援に関わって行くように努めていきます
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	イベント時に交流しています	父母の会は現在存在していないが、今後視野に入れて支援する様努めます
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情処理担当者を定めて対応している	苦情が出れば即対応し、事業所内で報告、連絡、相談体制をとります
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	季節の行事を予定し行っている	会報等毎月発行しています、イベントや行事の際にも動画やライブ配信、ビデオ通話等で発信して伝えている。
	35	個人情報に十分注意している	○		保護条例に基づき注意している	定期的に法人の規約や条例を再確認する様努めている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			利用者、保護者とのコミュニケーションを大切に支援の充実を図る
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		参加しています	こちらのイベントにも参加してもらえる様、年に2回は招待している

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	ホームページで公開している	防犯マニュアルについては解りやすいマニュアルを作成し直し特に重要な事は職員や保護者に周知徹底する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回は行っている	消防署などに助言してもらいながら、市の指定の避難場所への避難訓練を行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	市や府内の研修に参加しています	一人一人の障がいの特性を理解し人権に関する意識の向上を図り研修を受けます
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束の事例はない	そのような事例があればスタッフや学校関係行政など、保護者と連携を図り家庭での様子も含め聞き取りをし身体拘束についての理解を深める
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	エピペンを持っている児童もいるが、看護師に任せている	アレルギーのある子どもには、保護者の支持をマニュアル通り対応しています
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	事例を必ず共有している	最大の注意を払い事例を文書化して記録に残します